



2016年度(平成29年3月期) 第3四半期 決算説明会

エーザイ株式会社
2017年2月2日

将来見通しに関する注意事項



- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

2016年度第3四半期 連結業績(IFRS)



増益を達成し、財務の健全性を確保

(億円、%)

	2015年4-12月		2016年4-12月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	4,264	100.0	4,092	100.0	96
売上原価	1,493	35.0	1,479	36.1	99
売上総利益	2,772	65.0	2,614	63.9	94
研究開発費	914	21.4	795	19.4	87
販売管理費	1,459	34.2	1,329	32.5	91
その他の損益	87	2.0	87	2.1	100
営業利益	486	11.4	576	14.1	118
四半期利益	384	9.0	409	10.0	107
四半期利益(親会社所有者帰属)	383	9.0	384	9.4	100
ROE(%)	8.5		8.8		
フリーキャッシュフロー	429		593		
	2016年3月末実績		2016年12月末実績		
Net DER*(倍)	0.01		△0.01		

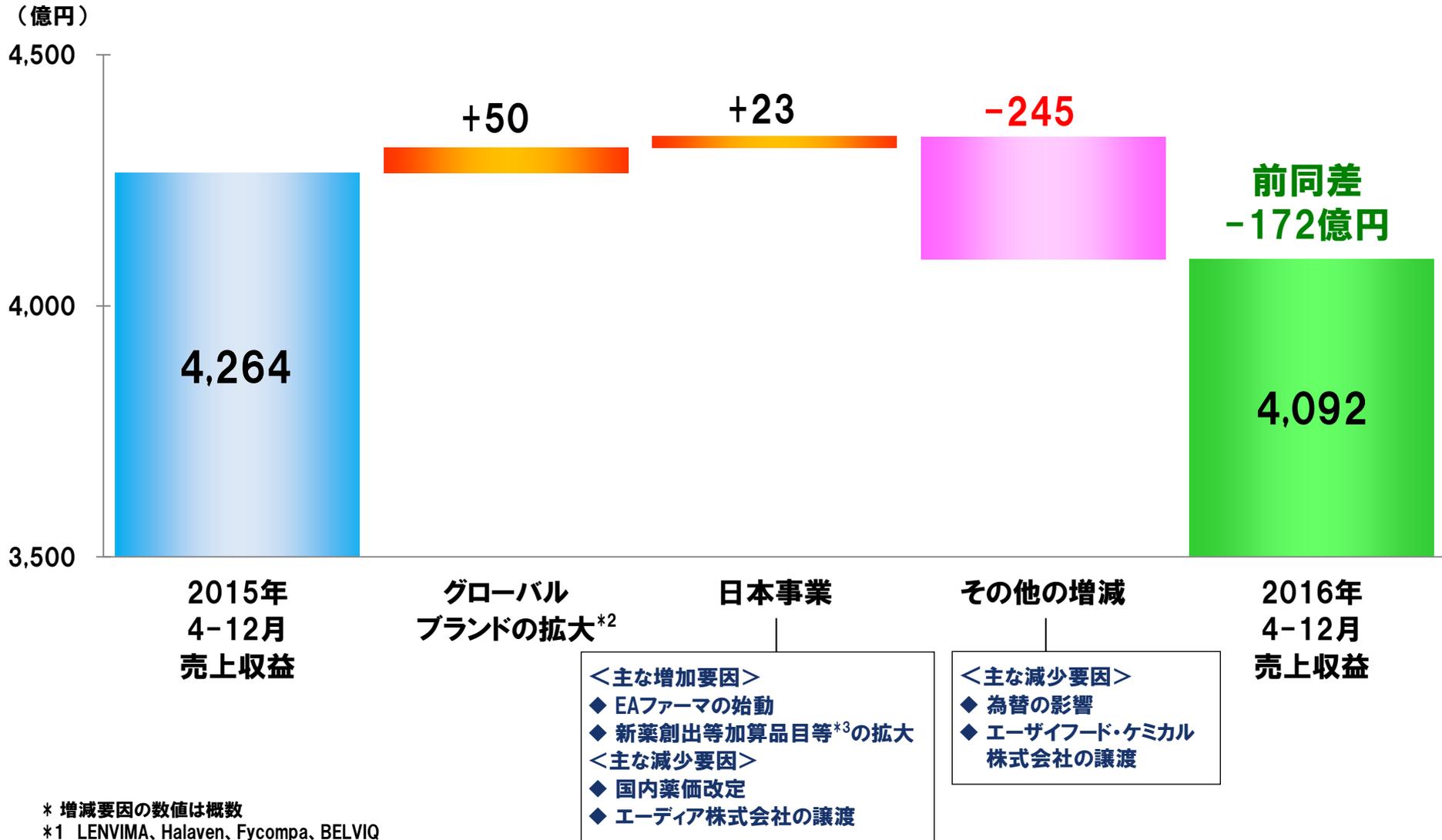
2016年度第3四半期期中平均レート

米ドル:106.62円(前期変動率△12.4%)、ユーロ:118.02円(同△12.2%)、英ポンド:141.85円(同△24.0%)、人民元:15.95円(同△17.2%)

* Net DER: Net Debt Equity Ratio=(有利子負債(社債及び借入金)-現金及び現金同等物-3カ月超預金等)÷親会社の所有者に帰属する持分

売上収益の増減要因分析

グローバルブランド*1が拡大



* 増減要因の数値は概数

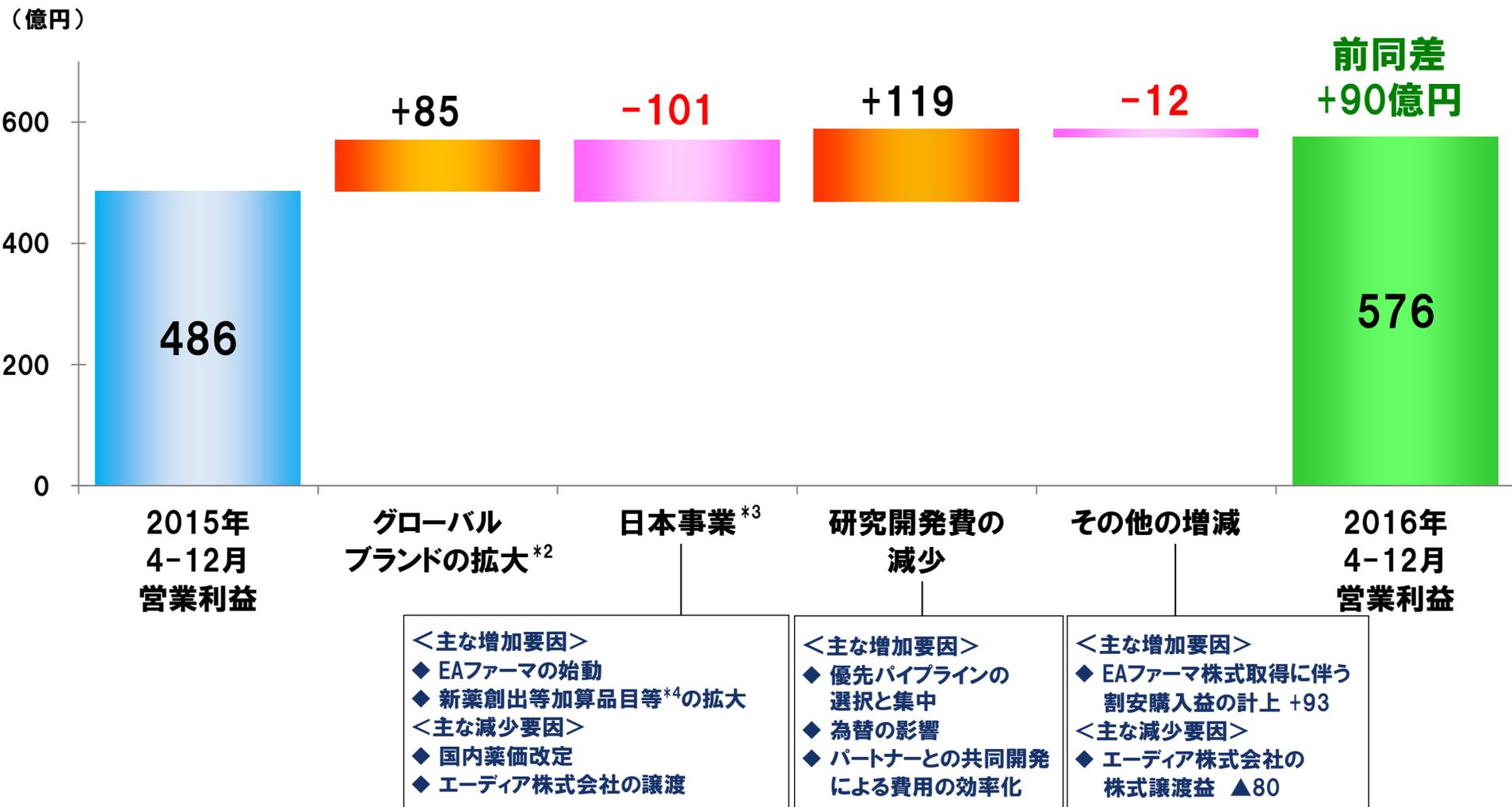
*1 LENVIMA、Halaven、Fycompa、BELVIQ

*2 日本事業の実績は除く

*3 新薬創出等加算品目を中心とした13品目：ハラヴェン、レンビマ、フィコンパ、ヒュミラ、ルネスタ、マクスルト、ホストイン、ケアラム、イノベロン、ナーブロック、ギリアデル、トリアキシン、リリカ(アライアンス収入)

営業利益の増減要因分析

グローバルブランド*1の拡大、費用の効率化が増益に貢献



* 増減要因の数値は概数

*1 LENVIMA、Halaven、Fycompa、BELVIQ

*2 LENVIMA、Halaven、Fycompa、BELVIQの営業利益を表示、日本事業の実績は除く

*3 セグメント利益を表示

*4 新薬創出等加算品目を中心とした13品目：ハラヴェン、レンビマ、フィコンパ、ヒュミラ、ルネスタ、マクサルト、ホストイン、ケアラム、イノベロン、ナーブロック、ギリアデル、トリアキシン、リリカ(アライアンス収入)

Strong Balance Sheet & Ample Cash Flow



バランスシート*1

有利子負債	2,148億円
現金・有価証券	2,219億円
ネットキャッシュ*3	71億円

Net DER*4	△0.01倍
-----------	--------

親会社の所有者に 帰属する持分	5,935億円
--------------------	---------

親会社所有者帰属持分比率	57.0%
--------------	-------

キャッシュフロー*2

営業キャッシュフロー	426億円
資本的支出等	+167億円
フリーキャッシュフロー	593億円

(億円)



第2四半期に引き続き
ネットキャッシュポジションを確保

配当金
150円維持

第3四半期累計で
年間配当予定額*5を上回る
フリーキャッシュフローを確保

*1 2016年12月末実績 *2 2016年度3Q累計実績 *3 ネットキャッシュ=現金・有価証券(現金及び現金同等物+3カ月超預金等)-有利子負債(社債及び借入金)

*4 Net DER: Net Debt Equity Ratio=(有利子負債(社債及び借入金)-現金及び現金同等物-3カ月超預金等)÷親会社の所有者に帰属する持分

*5 配当金の決定は取締役会の承認を前提とする

2016年度 連結業績見通し(IFRS)



本業での成長回帰により、EWAYの初年度はほぼ計画通りのスタートを実現

(億円、%)

	2015年度		2016年度		
	実績	売上比	見通し	売上比	前期比
売上収益	5,479	100.0	5,480	100.0	100
売上原価	1,945	35.5	1,990	36.3	102
売上総利益	3,535	64.5	3,490	63.7	99
研究開発費	1,223	22.3	1,162	21.2	95
販売管理費	1,928	35.2	1,810	33.0	94
その他の損益	136	2.5	82	1.5	60
営業利益	519	9.5	600	10.9	116
当期利益	550	10.0	440	8.0	80
当期利益(親会社所有者帰属)	549	10.0	413	7.5	75
EPS(円)	192.2		144.4		75
ROE(%)	9.4		7.5		
DOE(%)	7.3		7.8		
配当金(円)	150		150		

2015年度期中平均レート
2016年度第4四半期予想レート

米ドル:120.14円、ユーロ:132.57円、英ポンド:181.30円、人民元:18.85円
米ドル:113円、ユーロ:120円、英ポンド:141円、人民元:16.3円

Elenbecestat^{*1}(E2609)^{*2} BACE阻害剤 早期結果取得に向けた急進開発



フェーズIII試験 MISSION AD1、MISSION AD2^{*3}進行中

MISSION AD



FDA(米国)、EMA(欧州)、PMDA(日本)と効率的な試験デザインについて合意

10月

- MISSION AD1においてFirst Patient In^{*4}

11月

- FDA(米国)よりFast Trackに指定

12月

- CTAD2016^{*5}にて、フェーズI試験とフェーズII試験に関するデータを発表^{*6}
- MISSION AD1においてFirst Dosing
- MISSION AD2においてFirst Patient In^{*4}

2020年度 MISSION AD1、MISSION AD2の 主要評価項目トップライン結果取得予定

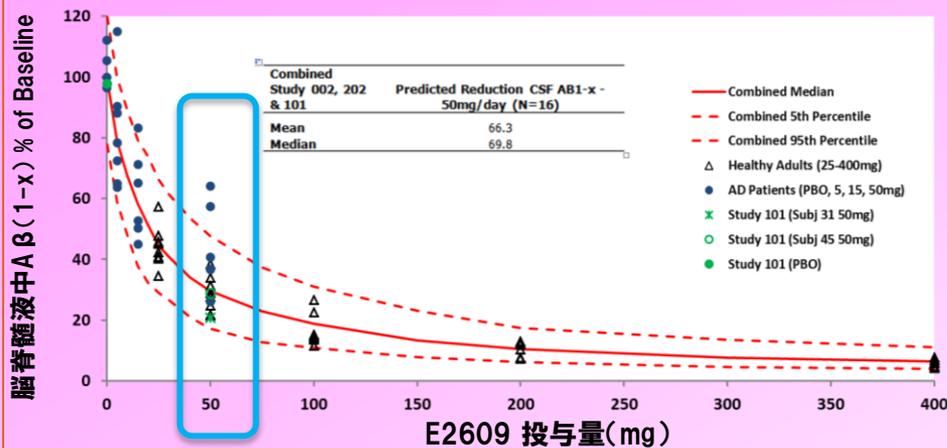
*1 一般名は現時点で最終確定したものではない *2 Biogen社との共同開発 *3 E2609のフェーズIII試験の名称(AD1は301試験、AD2は302試験)
*4 観察期間への登録 *5 第9回アルツハイマー病臨床試験会議(Clinical trials on Alzheimer's Disease) *6 抄録番号P3-27、P3-28

アルツハイマー型認知症患者様において Proof of Mechanism を証明

12月のCTAD2016^{*3}にて、フェーズ I 試験とフェーズ II 試験に関するデータを発表^{*4}

フェーズ II 試験(202試験)

Aβ陽性のMCI^{*5}および軽度～中等度アルツハイマー型認知症患者様を対象とした安全性とAβ濃度の変化の評価



フェーズ I 試験データも加えて解析した結果
50mg/日投与において脳脊髄液中の
Aβ(1-x)^{*6}が70%レベル減少^{*7}すること
を確認し、50mg/日をフェーズIII試験
での至適用量として決定

単一用量を用いた効率的なフェーズIII試験を実施し、開発期間の短縮をめざす

フェーズ I 試験(006試験)

日本人が国際共同試験であるフェーズIII試験に参加するための確認試験

日本人と白人で、薬物動態、薬力学作用において有意な差は検出されず
安全性についても大きな違いは検出されず

*1 一般名は現時点で最終確定したものではない *2 Biogen社との共同開発 *3 第9回アルツハイマー病臨床試験会議 (Clinical trials on Alzheimer's Disease)

*4 抄録番号P3-27、P3-28 *5 軽度認知障害 *6 Aβの総量を反映するAβ(1-x)を測定 *7 中央値として70%減少

BAN2401^{*1} 抗A β プロトフィブリル抗体

順調な進捗



BAN2401
(抗A β プロトフィブリル抗体)

フェーズII試験進行中

- 1月にLPI^{*2}後1回目(3カ月後)の中間解析^{*3}を実施
IMC^{*4}は試験継続を推奨
- LPI^{*5}の12カ月後にトップラインデータ解析(主要評価項目^{*6})、
18カ月後にフル解析(副次評価項目^{*7})を実施予定

**フェーズII試験結果がポジティブな場合、承認申請要件を
満たす試験としての活用について当局と協議中**

Aducanumab^{*8}
(抗A β 抗体)

フェーズIII試験(ENGAGE試験、EMERGE試験)進行中

**フェーズIb試験の用量漸増試験結果と長期継続投与試験の
24カ月のデータを12月のCTAD2016^{*9}にて発表^{*10}**

*1 Biogen社との共同開発 *2 Last Patient In (800症例の割付時)

*3 LPI (800症例の割付時)の3カ月後、6カ月後、9カ月後に中間解析を実施。バイジアンアダプティブデザインでの中間解析における早期成功のクライテリア:投与開始から12カ月後に
最適用量とプラセボとの差が少なくとも25%(1年間におけるAlzheimer's Disease Composite Score (ADCOMS)の点数の変化に対する改善の度合い)となる確率が95%以上

*4 Independent Monitoring Committee 独立モニタリングコミッティー *5 Last Patient In (最終症例の登録時) *6 Alzheimer's Disease Composite Score(ADCOMS)

*7 副次評価項目(3項目):ADCOMS(18カ月時点)、vMRIで測定したトータル海馬体積(6、12、18カ月時点)、アミロイドPETで測定した脳内アミロイドレベル(12、18ヵ月時点)

*8 Biogen社が開発中、エーザイは共同開発・共同販促のオプション権を保有

*9 第9回アルツハイマー病臨床試験会議(Clinical trials on Alzheimer's Disease) *10 抄録番号OC21、OC31

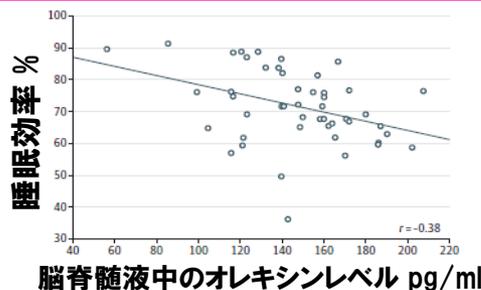
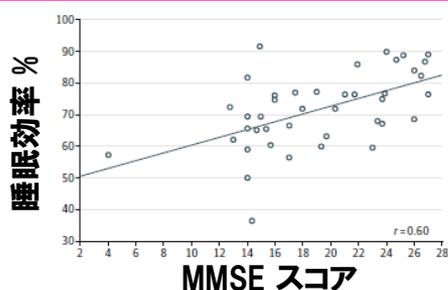
Lemborexant*1 オレキシン受容体拮抗剤 2つの適応症で2019年度の申請をめざす



不規則睡眠覚醒リズム障害(ISWRD*2)

アルツハイマー型認知症患者様を対象とした
ファーストインクラスのISWRD治療剤をめざす

AD患者様における睡眠効率³は認知機能と正の相関があり
脳脊髄液中のオレキシンレベルと負の相関がある*3



ISWRDが
もたらす問題

日中の過度な眠気
によるQOLの低下

夜間の転倒リスク、
介護者の負担

フェーズII試験が進行中 (10月開始)

試験デザイン

- **対象**: 軽度、中等度アルツハイマー型認知症に伴うISWRD患者様 約125人
- **投与群**: lemborexant 2.5mg群、5mg群、10mg群、15mg群、プラセボ群
- **投与期間**: 4週間
- **主要評価項目**: アクチグラム*4を用いた睡眠効率(就床時間に対する全睡眠時間の割合)および覚醒効率(1日の夜間就床時間以外の時間に対する覚醒時間の割合)

不眠障害

高齢者の患者様を対象にしたユニークな
ポジショニングでベストインクラスの
不眠障害治療剤をめざす

2本のフェーズIII試験が進行中

- ◆ **304試験**(5月開始): 実薬「zolpidem」対照試験
(対象: 不眠障害を有する55歳以上の患者様 約950名)
- ◆ **303試験**(10月開始): 6カ月の長期プラセボ対照試験
(対象: 不眠障害を有する患者様 約900人(40%が65歳以上))

*1 Purdue Pharma社との共同開発 *2 Irregular Sleep-Wake Rhythm Disorder 睡眠や覚醒の出現が昼夜を問わず不規則になる病態

*3 Liguori et al, *JAMA Neurol.* 2014;71(12):1498-1505

*4 手首に装着する非侵襲的なデバイスであり、数週間連続して概日リズムにおける睡眠覚醒パターンを計測することが出来る機器

Fycompa てんかん治療剤

価値最大化に向けた取り組みの進展

米国てんかん学会で新たなデータを発表



3Q累計売上収益 **74億円**（前同比138%、**為替の影響を除いた前同比 158%**）
50カ国以上で承認取得済み

価値最大化に向けた取り組みの進展

部分てんかん単剤療法

- 米国** 適応追加申請受理を確認、**PDUFAアクションデート:2017年7月26日**
- 欧州** 添付文書へのデータ追加申請中(2016年9月申請)
- 日本** **適応取得に向けた比較的小規模で効率的なデータ申請パッケージについて当局と合意、2017年度中にフェーズIII試験を開始予定**

小児適応:フェーズIII試験進行中 レノックス・ガストー症候群:フェーズIII試験進行中

第70回米国てんかん学会における新たなデータ発表 (American Epilepsy Society:AES 2016)

Fycompaに関して 8演題を発表

- Fycompa治療前後で患者様の入院や外来受診の割合が有意に減少するデータ*1
- 長期継続投与試験において、4年間にわたる治療効果の維持と良好な安全性プロファイルを示したデータ*2
- 単剤療法でも併用療法と同等もしくは良好な発作コントロールを示唆したデータ*3 など

全世界における開発・販売に関する全ての権利を獲得



**2016年12月、独占的商業化に関する
ライセンス契約の変更についてArena社と合意**



- **全世界におけるBELVIQの開発、申請ならびに販売に関して、
単独で意思決定および実行が可能**
- **Arena社に対するロイヤルティ、マイルストーン支払いなどの経済条件が改善**
- **当社によるBELVIQの製造に向けて、技術移転を予定**
- **韓国、台湾、イスラエルでは、Arena社が契約している代理店に対し、
当社が独占的に本剤を供給し、その対価として収益を得る**

開発・申請戦略の自由度拡大により、患者様貢献の加速をめざす

心血管アウトカム試験(CVOT)が順調に進行中

MACE*¹、2型糖尿病発症における抑制効果、MACE+*²を評価

E6011 抗フラクタルカイン抗体

新規作用メカニズムで炎症カスケードの起点をねらう

E6011

関節リウマチとクローン病で
開発が進行中

関節リウマチ

フェーズI/II試験の良好な結果を取得
**生物学的製剤の1stラインならびに
 既存薬との差別化を企図し
 標準治療薬効果不十分な患者様を対象とした
 新たな2本のフェーズII試験を9月に開始**

- 201試験:メトトレキサート効果不十分な患者様を対象
- 202試験:生物学的製剤効果不十分な患者様を対象

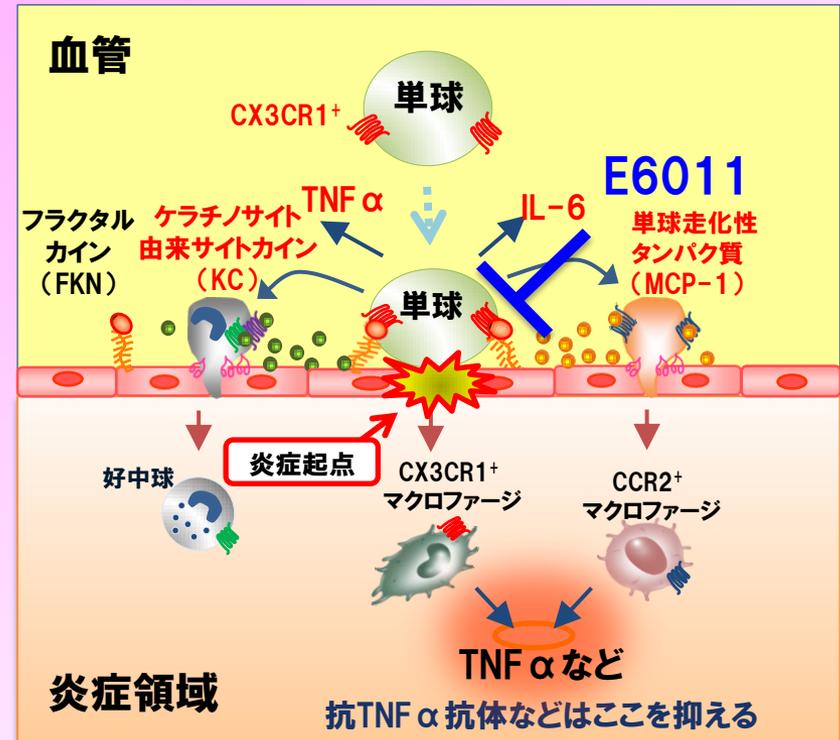
クローン病*

フェーズI/II試験が順調に進行中

バイオマーカー研究

臨床効果予測や予後、安全性などに
 関するバイオマーカー候補を同定
 臨床試験での活用を検討中

E6011の作用メカニズム



- ◆フラクタルカインは白血球の免疫炎症発生機序の上流に位置
- ◆E6011は炎症起点であるフラクタルカインを抑えることで効果を発揮し、既存薬との差別化をはかる

複数の新規作用機序をターゲットとした

認知症およびてんかんを中心とするRobustなパイプラインの進展



認知症領域

てんかん領域

その他の領域

フェーズIII 以降

(準備中、申請中、
フェーズIV進行中
のテーマを含む)

Elenbecestat^{*1}
(**E2609**)^{*2}

早期アルツハイマー病

Aducanumab^{*3}

早期アルツハイマー型認知症

Fycompa

単剤療法(米国:申請中、
日本:フェーズIII準備中)

Fycompa

小児適応

Fycompa

レノックス・ガストー症候群

BELVIQ

心血管アウトカム試験
(CVOT、フェーズIV進行中)

Lemborexant^{*4}

不眠障害

フェーズII

BAN2401^{*2}

早期アルツハイマー型認知症

Lemborexant^{*4}

認知症に伴う
不規則睡眠覚醒リズム障害

E6011

抗フラクタルカイン抗体
関節リウマチ

E6011

抗フラクタルカイン抗体
クローン病^{*5}

フェーズI (準備中含む)

E2027

PDE9阻害剤
認知症

E2730

新規のシナプス機能モジュレーター
てんかん等の神経領域疾患

E2082

次世代AMPA受容体拮抗剤
複数の神経領域疾患
フェーズI準備中
2017年度治験開始予定

*1 一般名は現時点で最終確定したものではない *2 Biogen社との共同開発 *3 Biogen社が開発中、エーザイは共同開発・共同販促のオプション権を保有
*4 Purdue Pharma社との共同開発 *5 EAファーマが開発中

肝がんの患者様数

	米国	欧州	日本	中国	アジア
年間新規患者様数	3.0万人	6.3万人	3.6万人	39.5万人	16.3万人
年間死亡患者様数	2.4万人	6.2万人	3.3万人	38.3万人	15.1万人

- 全世界の肝がんの年間新規患者様数78万人、年間死亡患者様数75万人
 - ・アジア地域(中国、日本含む)に約80%の患者様が集中
 - ・発生率と死亡率は世界中で増加
- 肝細胞がんは肝がんにおいて最も発生頻度が高く、原発性肝がん全体の約85～90%を占める
- 主な原因: B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、アルコールの乱用による肝硬変
- 最近の調査では非B型非C型肝細胞がんの増加が報告

肝細胞がん1stライン フェーズIII試験で主要評価項目を達成

アンメットメディカルニーズの高い肝細胞がん

- 進行性肝細胞がんの予後は極めて悪い
- 全身療法として臨床試験により延命効果が確認されている既存の承認薬はソラフェニブのみ

肝細胞がん 1stライン フェーズIII試験 (304試験)

対象:	全身化学療法歴のない切除不能な肝細胞がん患者様 (N=954)
レンバチニブ投与群:	12 または 8 mg 1日1回経口投与(体重による) (N=478)
ソラフェニブ投与群:	400mg 1日2回経口投与(N=476)
主要評価項目:	全生存期間(OS)
副次評価項目:	無増悪生存期間(PFS)、無増悪期間(TTP)、奏効率(ORR)など

**レンバチニブ投与群は、ソラフェニブ投与群に比較して
全生存期間における非劣性が統計学的に証明され、
無増悪生存期間、無増悪期間、奏効率において
統計学的に有意かつ臨床的意義のある改善を示した**

有害事象(上位5つ): 高血圧、下痢、食欲減退、体重減少、疲労
これまでにレンバチニブの投与で認められた安全性プロファイルと同様

2017年度1Q グローバル申請をめざす

甲状腺がんと腎細胞がんで進む患者様貢献と 価値最大化に向けた取り組み

3Q累計売上収益 151億円（前同比197%、為替の影響を除いた前同比221%）

甲状腺がん

- 50カ国以上で承認を取得
- フェーズIII試験で証明された高い治療効果を訴求し、成長拡大をめざす
- 中国：ローカルフェーズIII試験(308試験)を1月に開始

腎細胞がん 2ndライン*1

- 米国：Novartis社とのコ・ディテリングに加え、流通販路の拡大によりさらなる成長をめざす
- 欧州：2016年8月に承認を取得、ドイツ、オーストリア等で患者様貢献を拡大中

価値最大化に向けた取り組み

腎細胞がん

1stライン

フェーズIII進行中

- フェーズIII試験進行中
- 「レンバチニブ／ペムプロリズマブ」、「レンバチニブ／エベロリムス」の2つの併用療法を同時開発
- **2019年度中のトップライン結果取得をめざす**

LENVIMA ペムブロリズマブとの併用療法 Curative Medicineの実現に向けて

フェーズIb/II試験のフェーズIIパート進行中(113例達成*1)

レンバチニブ20 mg 1日1回投与
(フェーズII試験推奨用量)

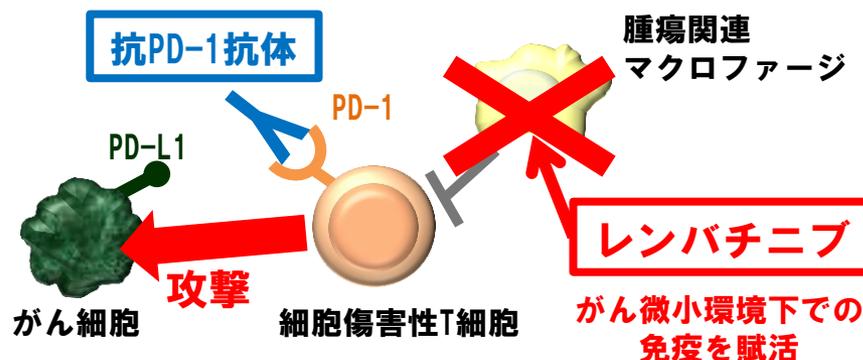
+

ペムブロリズマブ200 mg 3週に1回投与
(21日サイクル)

対象となるがん種(カッコ内は登録症例数*1)

腎細胞がん(22)	子宮内膜がん(21)
メラノーマ(20)	頭頸部扁平上皮細胞がん(20)
尿路上皮がん(16)	非小細胞肺がん(14)

レンバチニブとPD-1阻害剤の併用効果発現で
想定されるメカニズム*2



フェーズIb試験の中間解析データをESMO2016で発表*3

➤ 複数の前治療歴を持つ難治性の患者様全てで腫瘍が縮小

子宮内膜がんの症例数追加を決定し、まもなく症例登録開始

*1 2016年12月22日現在 *2 第27回AACR-NCI-EORTC(米国癌学会・米国国立癌研究所・欧州癌研究治療機関)国際会議で発表 抄録番号:A92 Kato *et al.*

*3 欧州臨床腫瘍学会年次総会(European Society for Medical Oncology: ESMO2016)でポスター発表 抄録番号:1779 Matthew H. Taylor *et al.*

Curative Medicineの実現に向けて

乳がん*1、軟部肉腫*2の2つの適応症による患者様貢献

- 3Q累計売上収益284億円（前同比94%、為替の影響を除いた前同比106%）
- 軟部肉腫に係る適応症：日米欧で承認済み、約10カ国で申請中
- 日本では軟部肉腫の適応拡大以降すでに600人以上の患者様へ貢献*3
- 英国：NICEがHalavenを進行性乳がん治療薬*4として推奨

併用療法の開発（上市目標：2020年度以降）

ペムブロリズマブとの併用療法

- ・ 転移性トリプルネガティブ乳がんを対象（目標症例数：95例）
- ・ フェーズIb/II試験のフェーズIIパート進行中

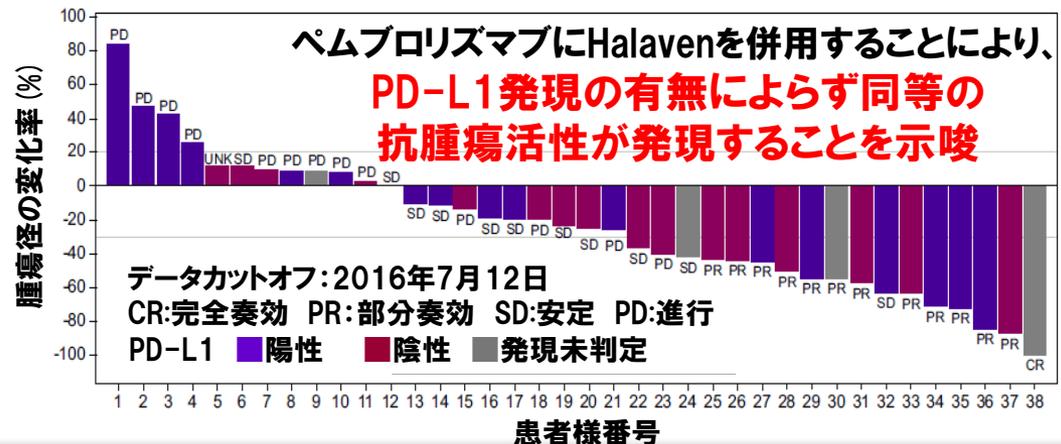
サンアントニオ乳がんシンポジウムで中間解析データを発表*5

奏効率 33.3%

（完全奏効1人および部分奏効12人）

PD-L1ステータス別の奏効率

- 陽性群 29.4%
- 陰性群 33.3%



*1 米国での適応症：局所進行性・転移性乳がん3rdライン以降、欧州での適応症：局所進行性・転移性乳がん2ndライン以降、日本での適応症：手術不能又は再発乳癌

*2 米国、欧州での適応症：脂肪肉腫、日本での適応症：悪性軟部肉腫 *3 2016年12月現在の累計（社内推計） *4 3rdライン以降

*5 39th Annual San Antonio Breast Cancer Symposium 抄録番号P5-15-02

ファーストインクラスの 低分子化合物パイプラインが着実に進展



単剤 併用

承認

トレアキシン*1
未治療の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫及びマントル細胞リンパ腫
効能・効果追加(2016年12月)

フェーズIII

LENVIMA
肝細胞がん1stライン
2017年度1Q申請予定

LENVIMA
腎細胞がん1stライン:
エベロリムスとの併用および
ペムブロリズマブとの併用

フェーズII

LENVIMA
腎細胞がん、子宮内膜がん、
メラノーマ、
頭頸部扁平上皮細胞がん、
尿路上皮がん、非小細胞肺がん:
ペムブロリズマブとの併用

Halaven
トリプルネガティブ
乳がん:
ペムブロリズマブ
との併用

Halaven
HER2ネガティブ
乳がん:
PEGPH20*4
との併用

HBI-8000*2
ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤
末梢性T細胞リンパ腫(PTCL)*3
成人T細胞白血病/リンパ腫*3

E7046
EP4拮抗剤
大腸がん:
術前放射線療法との併用:
フェーズI b/II 準備中

フェーズI (準備中含む)

H3B-8800
SF3B1モジュレーター
血液がん

H3B-6527
FGFR4阻害剤
肝細胞がん

E7090
FGFR1,2,3阻害剤
固形がん

E7438*5
EZH2阻害剤
血液がん

E7386*6
CBP/ β -カテニン阻害剤
固形がん
フェーズI 準備中

*1 シンバイオ製薬株式会社との共同開発品。エーザイは、シンバイオ社と日本における共同開発および販売に係る独占的ライセンス契約、シンガポールおよび韓国を対象とした開発・販売に係る独占的ライセンス契約を締結。 *2 HUYA Bioscience International, LLCとの共同開発品。エーザイは日本、韓国、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナムおよびシンガポールにおける独占的な開発および販売権を有する。 *3 Registration trial *4 Halozyme Therapeutics Inc.が開発中のPEG化遺伝子組換えヒト型ヒアルロン酸分解酵素 *5 Epizyme Inc. との共同開発品。エーザイは日本における開発、商業化を担うとともに、アジア地域における優先交渉権を有する。 *6 PRISM Pharma社との共同開発品

参考資料

セグメント売上収益



(億円、%)

	2015年4-12月		2016年4-12月		
	売上収益	構成比	売上収益	構成比	前同比
日本*1	2,251	52.8	2,274	55.6	101
アメリカス*2	929	21.8	852	20.8	92
中国	382	9.0	364	8.9	95
アジア*3	260	6.1	256	6.3	98
EMEA*4	313	7.3	280	6.8	90
医薬品事業計	4,135	97.0	4,026	98.4	97
その他事業	130	3.0	66	1.6	51
連結売上収益	4,264	100.0	4,092	100.0	96

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、一般用医薬品 *2 北米、中南米 *3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

セグメント利益



(億円、%)

	2015年4-12月			2016年4-12月			
	セグメント利益	構成比	利益率	セグメント利益	構成比	利益率	前同比
日本*1	940	67.3	41.8	839	61.2	36.9	89
アメリカス*2	178	12.7	19.2	237	17.3	27.8	133
中国	108	7.7	28.3	109	7.9	29.9	101
アジア*3	66	4.7	25.4	72	5.2	28.0	108
EMEA*4	82	5.9	26.3	102	7.4	36.4	124
医薬品事業計	1,374	98.3	33.2	1,358	99.0	33.7	99
その他事業	23	1.7	17.9	13	1.0	20.2	57
セグメント利益計	1,398	100.0	32.8	1,372	100.0	33.5	98
研究開発費および 親会社の本社管理費等	△991			△889			
割安購入益*5				93			
子会社株式売却益*6	80			1			
連結営業利益	486		11.4	576		14.1	118

* 当連結会計年度より、医薬品事業およびその他の事業のセグメント利益の算定方法を変更し、連結損益計算書の「その他の損益」を医薬品事業とその他の事業へ配分せず、その全額を「親会社の本社管理費等」に含めて表示

*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、一般用医薬品 *2 北米、中南米 *3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 *4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

*5 2016年4月にEAファーマ株式取得に伴い割安購入益を計上 *6 2015年12月にエーディア(株)を譲渡、2016年4月にサンノーバ(株)を譲渡

日本医薬品事業の業績



(億円、%)

	2015年4-12月		2016年4-12月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	2,251	100.0	2,274	100.0	101
医療用医薬品計	1,855	82.4	1,914	84.2	103
ヒュミラ	251	11.1	293	12.9	117
アリセプト	335	14.9	241	10.6	72
リリカ*1	188	8.3	184	8.1	98
パリエット*2, 3	248	11.0	170	7.5	69
メチコパール	165	7.3	144	6.3	87
ルネスタ	46	2.0	61	2.7	133
ハラヴェン	53	2.4	60	2.6	113
ワーファリン	60	2.7	54	2.4	90
エレンタール*2			51	2.3	
リーバクト*2			51	2.2	
アクトネル	51	2.3	44	2.0	87
レンビマ	11	0.5	21	0.9	191
フィコンパ			3	0.1	
ジェネリック医薬品	211	9.4	208	9.2	99
一般用医薬品等	141	6.3	152	6.7	108
診断薬	44	2.0			
セグメント利益	940	41.8	839	36.9	89

アメリカス医薬品事業の業績



(億円、%)

	2015年4-12月		2016年4-12月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	929	100.0	852	100.0	92 [105]
Aloxi	418	45.0	355	41.7	85 [97]
ハラヴェン	133	14.3	125	14.7	94 [107]
レンビマ	59	6.4	107	12.5	180 [205]
Banzel	99	10.6	99	11.6	100 [114]
アシフェックス	67	7.2	55	6.5	82 [94]
Fycompa	27	2.9	37	4.3	135 [154]
BELVIQ	36	3.8	28	3.3	78 [89]
セグメント利益	178	19.2	237	27.8	133 [153]

[]内は現地通貨ベース

中国、アジア*医薬品事業の業績



<中国>

(億円、%)

	2015年4-12月		2016年4-12月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	382	100.0	364	100.0	95 [115]
メチコバル	151	39.6	138	37.9	91 [110]
強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン	70	18.5	62	17.0	88 [106]
アリセプト	41	10.7	45	12.3	109 [132]
パリエット	24	6.3	28	7.6	114 [138]
セグメント利益	108	28.3	109	29.9	101 [135]

[]内は現地通貨ベース

<アジア>

(億円、%)

	2015年4-12月		2016年4-12月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	260	100.0	256	100.0	98 [113]
アリセプト	77	29.6	73	28.3	94 [108]
ヒュミラ	68	26.3	70	27.5	103 [118]
パリエット	27	10.2	26	10.2	99 [113]
メチコバル	25	9.5	21	8.4	87 [101]
ハラヴェン	14	5.5	15	5.7	102 [118]
Fycompa	0	0.1	3	1.0	725 [834]
レンビマ	0	0.1	2	0.6	497 [568]
セグメント利益	66	25.4	72	28.0	108 [128]

[]内は現地通貨ベース

EMEA* 医薬品事業の業績



(億円、%)

	2015年4-12月		2016年4-12月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	313	100.0	280	100.0	90 [104]
ハラヴェン	100	32.0	84	30.1	84 [98]
ゾネグラン	61	19.7	40	14.3	65 [76]
Fycompa	26	8.3	31	11.2	120 [140]
Zebinix	28	8.8	26	9.3	95 [109]
レンビマ	6	1.9	21	7.6	362 [420]
イノペロン	17	5.4	14	5.0	84 [99]
セグメント利益	82	26.3	102	36.4	124 [138]

* 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

[]内は現地通貨ベース